

C-75 成人女子(30~65才)と大学生女子(19~22才)との体型比較
東京学芸大教育 石毛フミ子 昭和女短大 椎名米子 昭和女家政 鈴木キミ子 下田礼子

目的 昭和45年のJIS規格改定の通り、4~29才までの日本人の体位の向上は明らかになった。今回は、30才以上について参考寸法を得、体型を把握して被服製作の一助とする事を目的として身体計測を実施した。

方法 計測時期は昭和47年7月~9月で京浜地区在住の30才代・40才代・50才以上の成人女子762名について、実測部位29項目をマルチン法により行った。今回はその中から各年代それぞれ200名計600名を抽出し、実測部位12項目をとりあげ、年令別に平均値・標準偏差・示数值・相関係数・モリソン関係偏差折線を求め、これを家政学会第20回総会に報告した(石毛ほか)中の大学生女子計測値と比較した。

結果 成人女子の各部位における分散の度合いは、大学生女子より、優位な傾向を示した。モリソン関係偏差折線でみると、身長・総たけ・背たけ・前、後胴高・袖たけの長径項目および背肩幅は、大学生女子より、30才代・40才代・50才代以上の順に劣っていた。胸囲・胴囲・腰囲・頸付根回りの周径項目および体重は、大学生女子より、30才代・40才代・50才代以上の順に優位であり、特に胴囲は各年代とも大学生女子より顕著であった。